



なきごえ



1988

8

大阪市
天王寺動物園協会



就任のごあいさつ



社団法人 大阪市天王寺動物園協会

会長 西尾 照子
(大阪市長夫人)

このたび、会員の皆様方のご推挙によりまして、当協会の会長の重責をお引き受けすることになりました。

皆様のお力添えを得まして、ご期待にそむかぬよう、協会の一層の発展に努力してまいりたいと思います。

協会は、昭和42年5月1日の設立とうけたまわっておりますが、前会長はじめ皆様のご努力で順調に事業を進めてこられました。今年は21年目を迎え、いよいよ成熟し、充実した成果が期待されております。

ご承知のように、協会の設立主旨は、天王寺動物園の発展に協力することにありますので、動物園の円滑な運営と、来園客の皆様によりご満足いただけますよう、一層工夫してまいりたいと思っております。

どうか、皆様におかれましても、前会長同様、あたたかいご支援、ご協力をいただきますようお願い申しあげまして、会長就任のごあいさつといたします。

なきごえ8月号もくじ

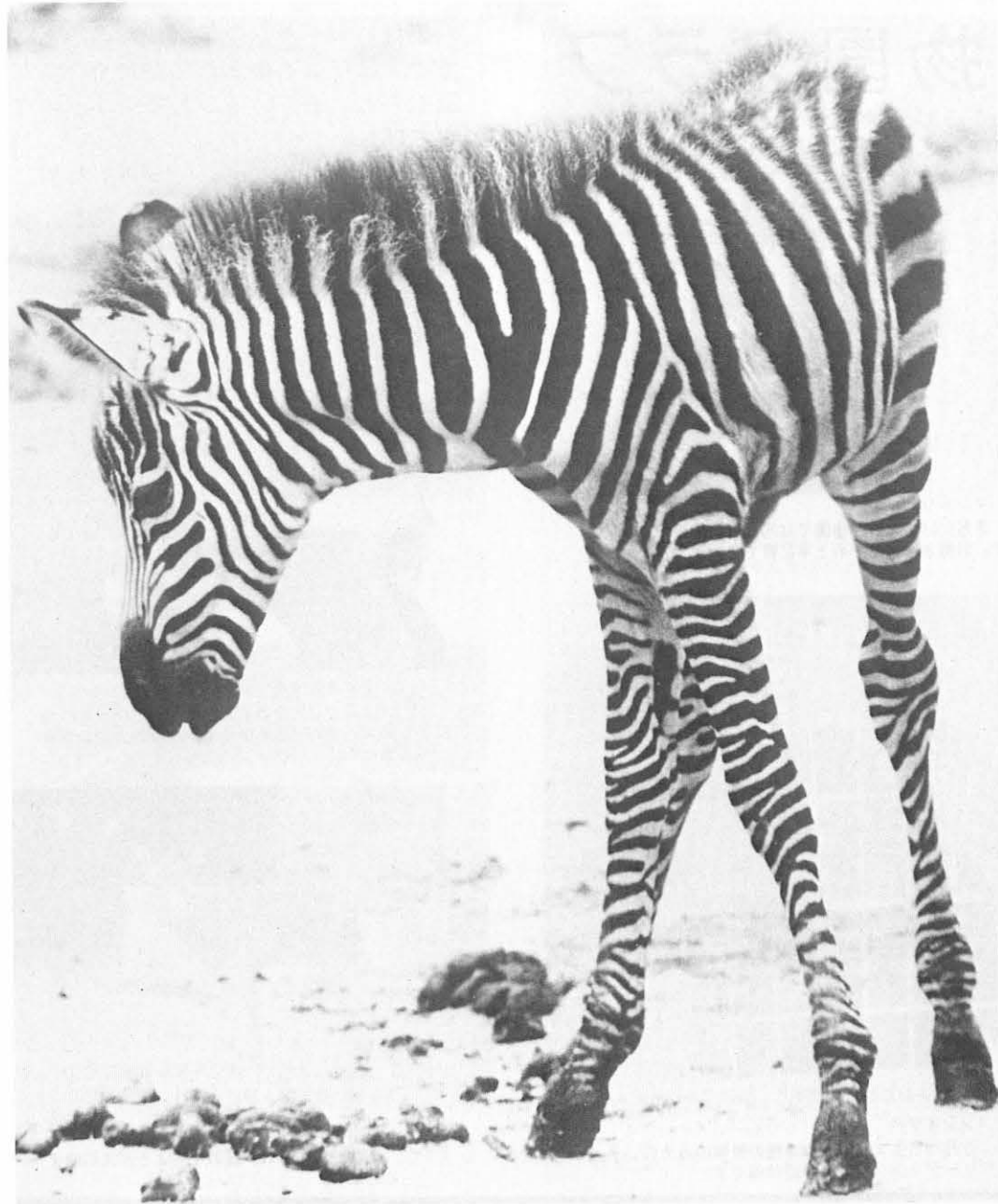
就任のごあいさつ.....	2
“グラントシマウマに赤ちゃん誕生”.....	3
動物園日記・動物園グラフ.....	4・5
屋久島のサル.....	6・7
バードケージ“鳥の楽園”この一年.....	8・9
動物なんでも相談室 ⑳.....	10
動物園ニュース.....	11

表紙の写真説明

ハリネズミ *Erinaceus europaeus*

ヨーロッパからソビエト、中国、朝鮮半島とかなり広範囲に分布している食虫目の動物です。昆虫類を主食にカエルやネズミ、小鳥なども食べますが、動物園では鶏肉、卵、パン、リンゴ、ふかしたサツマイモなどを与えています。

(撮影：宮下 実)



“グラントシマウマに赤ちゃん誕生”

6月17日にグラントシマウマの赤ちゃんが生まれま
した。まだまだ甘えん坊ですが、元気一杯です。

(撮影：大野 尊 信)

動物園グラフ

なぎごえ24(8),1988

先月につづき、今年生まれの赤ちゃん特集です。毎年よく生まれる動物や、久しぶりの誕生のものまでいろいろですが、皆元気に育ってほしいものです。

(撮影：大野 尊信)



マンドリル
6月10日生まれ。当園では初めての出産です。お母さんはとても上手に育てています。



シオザル
3月19日生まれ。稀少な種の繁殖のためのブリーディングローンの成功例です。



フサオオマキザル
4月27日生まれ。人工哺育しています。お母さんがわりのぬいぐるみはまだまだかかせません。



ニホンジカ
6月1日生まれ。鹿の子もようが光に映えています。

5・6月の動物園日記

- 5 / 29. カリフォルニアアシカが1頭生まれました。今年のはじめての出産です。
- 6 / 1. ニホンジカにオスの子が1頭生まれました。
- 6 / 2. 保護され、元気を回復したウミウを泉南浦で放鳥しました。
- 6 / 3. 5月29日に生まれたアシカの子の体重測定を行いました。
- 6 / 4. コウノトリ舎のタンチョウが1羽ふ化しました。
- 6 / 5. タンチョウのヒナが自分でもミミズやミールワームなどのエサを取って食べるようになりました。

- 6 / 8. ニホンジカのメスが1頭生まれました。保護され、元気を回復したタヌキとフクロウを生駒山に自然復帰させました。
- 6 / 10. バードケージ“鳥の楽園”で繁殖したシュバシュコウのヒナたちに個体識別のための足環を擬木の巣の上まで登って装着しました。
- 6 / 11. 神戸市立王子動物園よりホンDIGツネのメス2頭の寄贈を受けました。
- 6 / 12. ジャングルキャットが交尾しました。本年4頭目のニホンジカの子が生まれました。
- 6 / 13. 本年5頭目のニホンザルの子供が生まれました。

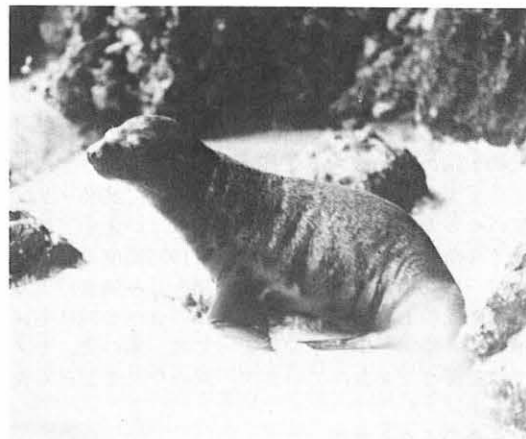
なぎごえ24(8),1988



ブラックバック
今年は5頭生まれました、しばらくは安全なところでじっとしていることが多いようです。



タンチョウ
6月4日生まれ。6年ぶりの誕生です、成長が早く日増しに大きくなっています。



カリフォルニアアシカ
5月29日生まれ。今年4頭出産しました。約半年間は母親のミルクだけで育ちます。



ニジキジ
6月19日生まれ。日本初の自然フ化の成功です。

- 6 / 15. カリフォルニアアシカのオスが1頭生まれました。本年2頭目です。
- 6 / 17. オランウータンの皮膚の細胞の染色体分析によって、当園で飼育している5頭の亜種が判明しました。
- 6 / 17. グラントシマウマとブラックバックの子供がそれぞれ1頭生まれました。キーウィとハリモグラの体重測定を行ないました。
- 6 / 18. コジャコウネコが4頭生まれましたが、2頭のみ生存を確認しました。
- 6 / 19. ニジキジが5羽、自然ふ化しました。第38回動物のお話とスライドの会「動物渡

- 来物語」を開催しました。
- 6 / 20. オランウータンの1歳になるメスの赤ちゃんの“ユキ”が急性肺炎で死亡しました。
- 6 / 21. 本年3頭目のオスのカリフォルニアアシカの赤ちゃんが生まれました。
- 6 / 22. 本年4頭目のオスのブラックバックの赤ちゃんが生まれました。
- 6 / 23. バードケージ“鳥の楽園”で繁殖したカナダガン6羽を両親とともに旧ツル舎に移動させました。
- 6 / 24. 繁殖を目的として、横浜市動物園より、アメリカバク一番をお借りしました。

鮫島 恵理子

屋久島の自然環境

やくしまという島を知っていますか？
鹿兒島から南へ130km、鉄砲で有名な種子島の隣にある島です。細く、長く、平たい種子島とは対比的に、屋久島はまるい島で、海から一気に標高1000mを越す山々がそそり立ち、「洋上アルプス」ともよばれています。島の中央にそびえる宮之浦岳(1935m)は九州で一番高い山で、続いて九州の屋根を第6位まで屋久島ひとつで占めています。

また、屋久島は南の島でありながら、島全体が山ばかりなので特異な気候をもっています。島の北西側と南東側では気候が異なり、島の半分は雨、半分は晴れという天気もよくあることで



屋久島の森、国割岳西斜面(湯本貴和撮影)

気温は高度差に応じて変化し、海岸部では真冬でも最低気温が0℃以下になることはありませんが、山頂部では雪が降ります。

つまり、屋久島は日本の南北、日本海側と太平洋側の気候を凝縮してもっています。さらに、雨量が多いのも大きな特徴です。

屋久島の動植物

前述のように、島の気候は変化や特異性に富み、また屋久島の形成の長い歴史の中で、島特有の動植物を作り出してきました。

島には広くて、豊かな自然があり、その植生の豊かさは「日本の自然の原点」、「世界の宝」と内外さまざまな分野の研究者から高い評価をうけています。



ヤクザル、13頭の群れを率いるリーダーオス(湯本貴和撮影)

アコウヤガジュマルが茂る熱帯植物帯から、常緑樹林帯、ヤクスギ帯、ヤクザサ帯と高度差によって植物は変化しています。

さて、屋久島は古くから「サル2万、シカ2万、ヒト2万」といわれてきました。2万という数字はともかく、サルとシカが代表的な動物です。日本本土でよく見られるイノシシ、タヌキ、キツネ、ウサギ、リスなどは生息せず、哺乳動物ではサル、シカの他にイタチ、ネズミ、モグラ、コウモリしかいないという変わった動物相をもっています。

ヤクザルの特徴

ニホンザルは、北は青森県下北半島から、南は屋久島まで日本だけに分布しています。

特に屋久島に分布するニホンザルは、ヤクザルとよばれ、亜種に分類されています。

ヤクザルは本土ニホンザルと見比べると、体型はズングリムックリとした感じがします。アカンボウの体毛が黒い、少し小型で、体毛が長くて粗く灰色がかっている、四肢の先が黒っぽい、ツリ目が多いなどの特徴をもっています。

もちろん、屋久島のサルは檻の中で飼われているのではなく、大きな森の中で自由に生活しています。そういう私は、実は屋久島に来るまでは山にサルが住んでいるということが信じられませんでした。みなさんは、野生のサルの姿が想像できますか？

ヤクザルは、20~30頭の群れをつくり、群れごとに約1kmの遊動域とよばれる一定の地域内で生活しています。屋久島には、群れは約120群、2500~3000頭のサルが生息していると推定されています[屋久島サル研究グループ資料(1973~1975高度分布調査、1977~1978増井・斎藤らによる聞きこみ調査)より黒田作成のものを修正]。ヤクザルの食べものは主に植物で、果実、葉、季節によって花、木の皮、キノコ、冬芽などを食べています。昆虫やクモなども食べます。

屋久島の人々とサル

島ではサルのことは「アンチャン」、「大将」とよび、サルが「去る」につながら、縁起をかついでいるからです。群れのことは「カブ」、「カチ」。

屋久島には昔、サルの毛焼きという料理法があり、肉を食べていました。サルの頭の黒焼きや肉の塩漬けも民間薬として利用していました。また、民話にもサルが登場しています。

島の人々にとってサルは、古くから島に共存するもの、森の住人として、ずっとその関係をたもっていました。

ところが、サル側に大きな変化が起きました。昭和30年代の国有林の拡大造林政策によって、大規模な森林伐採がおすすめられ、サルのすみかが次々と失われていったのです。すみかを失ったサルは、そのうち人里近くの農耕地に現れるようになり、ついには農作物に手を出すようになりました。

そして、ヒトとサルの関係は一変し、サルは有害獣としてヒトの生活をおびやかす敵となってしまったのです。

サルによる農作物被害

屋久島で猿害が出始めたのは、昭和40年代に入ってからで、その後だいに被害地域が拡大していき、昭和55年頃から急に激しくなりました。現在では、猿害は島のいたるところで起っています。

それまでには、ヒト側にも変化がありました。

農業労力の高齢化や兼業化がすすみ、人々の注意が農耕地に集中しなくなったということが、被害を拡大・激化させていった原因であったことも事実です。

被害にあう作物は、ボンカン、タンカン、ビワ、甘しょ、エンドウ、稲、タケノコ、シイタケなど畑のほとんどの作物に被害が及んでいます。中でも、被害の大きいのはボンカン、タンカンの果樹で、これらは屋久島の農業が育てあげてきた大切な特産物です。

サルは、ボンカンが色着く10月下旬から手をつけ始め、その食べ方は色づきがよく、粒が大きいものを選びながら食べる傾向があります。ひとかじりして捨てたり、ただもぎ取って捨てる量も多いので、サルが食い荒らしたあとは食べかすやボンカンがあたり一面に散らばっており、その光景は無惨なものです。「明日収穫しようと思って帰ったら、翌朝にはほとんど実がついていなかった」という話もよく聞かれます。昭和61年度の屋久島における被害総額は6,517千円(鹿兒島県農政課調べ)で、経済的にも被害が大きくなっています。被害が激しいところでは、生産意欲が減退し、収量や品質低下、ついには生産そのものをやめてしまうところさえあります。

これまでの猿害防止対策

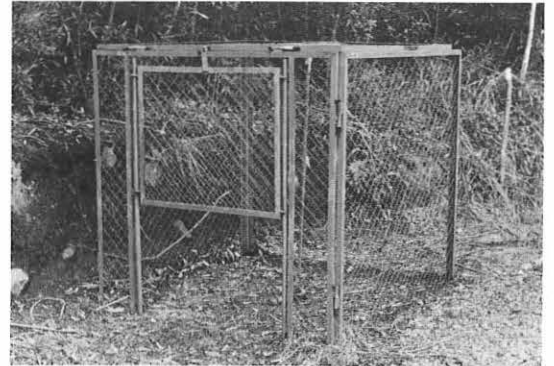
サルの被害を何とか防ごうと、生産者もさまざまな手立てを講じてきました。

農耕地をネットで囲む、テープや空缶をつるす、犬で追い払う、ラジオをならす、バクチクでおどす、爆音器をならすなどの対策が行われてきました。

しかし、どれも設置当初は効果はあるものの、たちまち効果は減少していきました。昭和54年からは、



ネットで囲まれたボンカン園



捕獲器

イノシシ用電気柵が導入されましたが、やはり効果は一時的で有効策とはなりませんでした。

以上のように、サルを農耕地から追い払う方法が試みられてきましたが、いずれも十分な効果をあげるまでには至らず、結局サルの個体数を直接減らさざるをえない状況になってしまったのです。

銃による威嚇射撃は、サルに大きな恐怖感を与えますが、山に入ってサルを見つけ出すのは容易ではなく、ハンターもサルは撃ちたがりません。

そのような中で、屋久島では昭和58年から捕獲器が導入され、現在70器余りが設置されています。被害地では確かに被害量は減少してきており、サルの個体数を直接減らす方法は一定の効果をあげているといえます。

猿害防除とサルの保護

しかし立場をかえてみると、昭和58年12月から昭和61年3月まで、2年3ヶ月の間に2156頭ものサルが駆除されており(鹿兒島県林務課調べ)、ヤクザルの個体数が急激な速さで減少していることが明らかとなりました。このまま次々にサルを捕えていくと、いつのまにか屋久島にサルがいなくなったということになりかねません。

ヒトは、今やサルや他の野生動物たちの生存さえも支配できるようになりました。だからこそ、ヒトに害を加えるから捕えてしまえという短絡的な考えでもって、場当たりの対策をすすめるのではなく、有害獣の対策についてはもっと慎重にかつ謙虚に行わねばならないのではないのでしょうか。

現在、サルを捕えない、殺さない、傷つけないで、サルに農耕地に近寄らないように学習させることによって被害を防ぐ方法が検討されており、すでに実用化にむけて改良がすすめられています。この方法は、時間もかかり、大へん難しい方法ですが、サル自身が農耕地を避けるようになれば、ヒトとサルの平和共存も可能なはずで

足柄山の金太郎の世界のように、ヒトとあらゆる野生動物とが再び共存できることを心から願い、それが実現できる日がくることを私は信じています。

(屋久島産業文化研究所)

昨年8月1日オープンしたジャイアントバードケージ“鳥の楽園”は、天王寺博覧会を経て好評のうち一年が過ぎ去りました。今回はこの間の足どりを簡単にお伝えしたいと思います。



オープニングセレモニー。

§ ヒョウタン型の大新居“鳥の楽園へ”

昨年7月17日、鳥たちの入居が始まりました。そのほとんどが北園の水禽放養舎の鳥たちで、44種184羽の鳥たちが転居してきました。鳥の捕獲作業はかなり難航が予想されていましたが、作業は飼育課職員のできばきとした連係プレイで、スムーズに進み、個体識別用の足環や翼帯の付いていない鳥については、この機に取り付けを行いました。

翌日には、新たに購入等を含む鳥類、25種93羽が入園、検疫および足環、翼帯装着後、鳥の楽園内に放たれました。

また7月24日には、上野動物園のご厚意により、シュモクドリ3羽が当園に贈られ、同様に入居しました。

7月下旬も半ばを過ぎるころになると、楽園内の鳥たちも落ちつきを見せるようになってきました。



7月31日には、シュモクドリに巣作り行動がみられ始め、その後1か月程で、滝の上にある樹上に、巨大な巣を作りあげました。

§ 天王寺博覧会と一般公開

シュバシコウ33羽をメインとして、47種にもものぼるガンやカモの

滝の木の上に作られたシュモクドリの巣
左下：交尾中のシュモクドリ
仲間、7種のサギ、他にツルやカモメ類、ウ、トキなど全66種290羽をこの“鳥の楽園”に擁して、8月1日、堂々オープンしました。この日は天王寺博覧会の開幕日でもあり、初日より多数の入館者があり、眼のあたりにくりひろげられる鳥たちの飛翔に入館者たちは真剣に見入っていました。

§ 繁殖第1号誕生

転居してまだ半月ほどしかたっていない8月初旬、アカハシリウキュウガモが10個の卵を産卵し抱卵しているのを確認しました。同月26日には、7羽がふ化し、6羽の生存を認めました。楽園の上方、滝の南側にある高さ1mほどの人工の樹洞でふ化し、翌日にはヒナたちは、両親のあとについて、滝の下の池で泳ぎだしました。見ていると滝の水の勢いでヒナたちが下流の方へ流されそうになるので、滝の流れを停止させ様子をうかがっていましたが、8月29日、3羽のヒナが行方不明となり、その翌日には、さらに、もう1羽が行方不明となってしまいました。シュモクドリが襲うような動作をしていたことから、この鳥が食べてしまったのかも知れません。幸いにも残りの2羽は順調に成育し、ふ化後2か月程で飛べるようになり、10月24日、楽園下流側の池に親とともに飛来するようになりました。



“鳥の楽園”繁殖第1号となったアカハシリウキュウガモ。自然繁殖はこれが日本で初めてのことでした。

当園では、昭和55年に日本で初めてアカハシリウキュウガモの人工繁殖に成功していますが、今回は日本初の自然繁殖に成功したことになります。

別の巣でも、アカハシリウキュウガモが産卵し抱卵しましたが、シュモクドリが自分の巣を作るために、巣の材料を横取りしてしまったことから、卵を抱くのをやめてしまいました。そこで、飼育担当者がその卵を検査したところ、6卵が発生中であることを確認し、早速、人工孵卵器に入れました。結局3羽のヒナがふ化成育し、11月下旬には、楽園の鳥たちの仲間入りをしました。

§ エサのいろいろ

楽園の1日のエサの量は、白菜30kg、パン60個、養鶏配合飼料は約10kg、冷凍アジ20kg、ドジョウ20kg、オキアミ15kgです。初めは、カエル、ザリガニ、金魚、アマゴなどを与えたりもしていました。

毎日3時頃、エサが与えられるわけですが、この時は鳥たちの動きも一段と活発になり、エサが置かれる人工の洲浜に、どんどん集まってきます。また、ミコアイサやオウギアイサなどアイサ類の、潜水するカモは、潜ってドジョウを捕まえているのがよく観察されます。

§ 住みよくするために

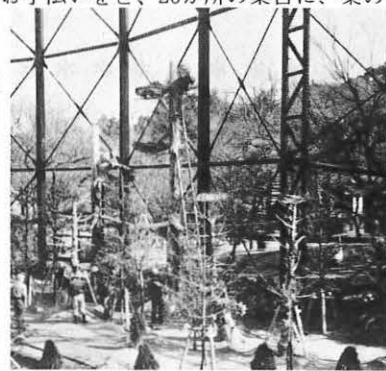
日本でも3番目の広さ(2564㎡)、展示鳥数では最高というこの鳥舎を、毎日きれいに維持していくのは大変なことです。しかし、約300羽の鳥が排泄

する糞の量といえば、かなりのものになることは否めません。ですから、池については、月2回、定期的に清掃を行い、糞や残餌、泥などが混る、池の底にたまったヘドロを取り除いています。また、陸地は、糞や残った餌を、毎日きれいに取り除いて、生活しやすい環境づくりをめざしています。

楽園内には、35種、2800本にも及ぶ植物が、当初から植え込まれました。ですから日常の水やりもかなり大変です。特にオープン当初は、植えてまだ日数が経過していないこともあり、夏でもあるということで、水やりは念入りに行なわなければなりません。担当者の努力も実って、今春からは、サツキやツツジの花々が咲きみだれるとともに、今とばかりに草木の葉が萌出で、楽園内は、冬のさびしい灰色のイメージから緑濃い、さわやかなイメージに衣替えしました。

§ 冬から春は楽園内の恋の季節

楽園内の鳥たちのほとんどは、恋の季節を冬から迎えます。今まで雌と同じように目立たない羽色をしていたカモ類の多くの雄たちは、繁殖羽と呼ばれる派手な衣装を身にまとうようになりました。また、ヨーロッパコウノトリとも呼ばれているシュバシコウは、巣作りを1月の末ごろから始めましたが、そのお手伝いをと、20か所の巣台に、巣の材料としての柳の小枝を、飼育係員が直接入れてやりました。その後、シュバシコウの巣作り行動は一段と盛んになったことを確認しました。



また、ガンやカモ用の人工巣穴は、楽

園建設当初から作られたコンクリート製のものが40巣ありましたが、300羽もいる楽園では、どうしても少ないようです。また各々の鳥を考慮に入れると、その鳥に見合った大きさの巣穴や巣箱、それに設置する場所も十分考慮する必要があります。この鳥の楽園の飼育担当者、三浦係員は前回の水禽放養舎担当時に、日本の動物園では未だかつて繁殖していなかった鳥を3種繁殖させたベテラン係員ですが、楽園においても、同僚員の経験が余すところなく発揮されつつあります。ショウジョウトキやアオサギ、コサギの繁殖のために、高い木の上の各所に、竹カゴを設置したり、ガンやカモのために、自作の大小様々な木製巣箱をどんどん作製、設置され、その数は全部で80を数えました。鳥たちも、つがいを組んだものたちから、気に入った巣を選んで産卵しはじめるようになりました。

本年4月7日、アオサギが2羽ふ化したのを皮切りに、シュバシコウ、コサギ、カナダガンなどが相



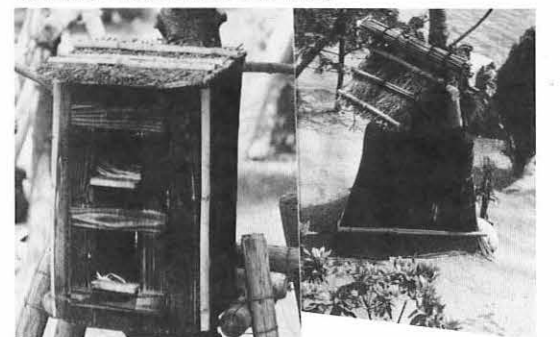
シュバシコウのヒナと親

次いでふ化していきました。また、産卵後、抱卵されず放置されたものは、孵卵器を用いて人工ふ化させました。これらの卵には、種類のはっきりとしないものが混っており、成長後始めて判明したものも含まれました。

この繁殖の中で、1つエピソードがあります。それはシュモクドリのヒナ3羽の巣立ちでした。寄贈していただいた3羽のうち1羽は、5月20日現在すでに死亡していましたから、3羽いるのはおかしいのですが、滝の横で3羽がのんびりと羽づくろいしていました。繁殖は予想していなかっただけに、呆気にとられた感じでした。このヒナは、外形、羽色とも両親そっくりで成鳥そのものです。その中に1つだけ違うところがありました。眼の虹彩が、親がこげ茶をしているのに対し、ヒナの方は灰白色をしていたのです。残りのヒナ2羽は、2日ごとに姿を現し、5月24日には5羽が勢ぞろいしたのです。シュモクドリは30日抱卵し、50日ほどで巣立ちするといえます。3月2日に見た交尾はこの繁殖に結びついたのでした。

§ すばらしい鳥の楽園を追い求めて

今年、繁殖した鳥は、自然、人工を含め全部で、約13種、100羽にのぼりました。



担当者手製のいろいろな人工巣

多くの異なった鳥を同居飼育していると、なわばりなどの関係で闘争がときに見られます。これをいかに緩和し、かつ自然で繁殖させるかが楽園の今後の課題と思われま

す。入園者の皆さんには、今後さらに様々な鳥たちの親子の姿を、見ていただくことができることでしよう。(飼育課：森本委利、三浦正明)

☆ マムシは口から赤ちゃんを生むと聞きますが
本当でしょうか？

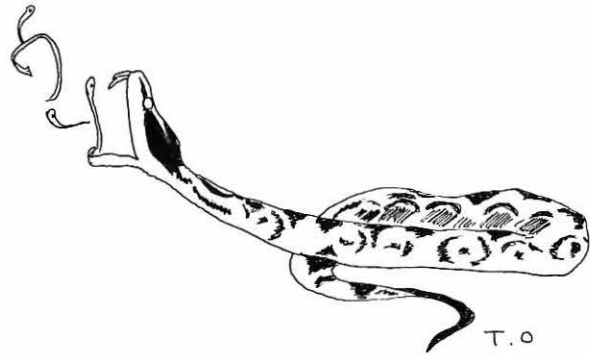
芦屋市 前田 加代子

昔から、動物の伝説、言い伝えの中には全くデタラメのものや、それぞれの習性をよく見ているもの等様々です。特にへびについては恐怖心が先立って間違っただけが多いようですね。

マムシは卵胎性で、総排泄腔から子へびを生み、決って口から生まれることはありません。

へび類が暖かくなり冬眠からさめた頃、同じように人々が野山にでる機会も多くなります。目撃しても、相手は毒へび、実際よく観察されることは少なく、間違っただけが残っているのではないのでしょうか

(回答 : 大野 尊信)
イラスト



☆ 動物たちに夏バテはあるのですか？

豊中市 大谷 直之

熱帯生まれの動物たちは夏は大好きのように思われがちですが、実際は寒い地方の動物たち同様日本の暑い夏は大変です。特にむし暑い日本の夏は熱帯以上だといわれています。自分の生活場所を変えることのできない動物園の動物達が出来るだけ暑さをしのげるよう、ヨシズを張って陰を作ったり、うち水、あるいは直接ホースで水をかけてやったりして水浴させることがあります。食欲の落ちた動物では特に注意が必要です。できるだけ工夫をして、夏をのりきることが、寒い冬を元気に過ごす重要な条件の一つかも知れません。

(回答 : 大野 尊信)
イラスト



§ 6年ぶりのタンチョウのふ化

6月4日、タンチョウのヒナが1羽ふ化しました。現在、天王寺動物園にはオス3羽とメス5羽のタンチョウを飼育していますが、7年連続して繁殖していたペアのオスが死亡した昭和58年以来繁殖に恵まれず、ひさしぶりのヒナの誕生です。

繁殖したペアのオスは天王寺動物園で昭和57年に生まれたもので、メスは昭和57年に京都市動物園で生まれ、昭和58年からお借りしているものです。繁殖ペア形成の努力をしてきましたが、これまでなかなかうまくいきませんでした。昨年も産卵しましたが、うまく巣づくりができず卵をわってしまいました。今回も4月27日に産んだ最初の卵はわってしまいましたが、その後4月30日と5月4日に産んだ2卵をオス、メス交代で卵を抱いていました。1卵は残念ながらふ化直前に死亡しましたが、もう1卵は無事にふ化しました。ふ化したヒナは茶色の羽毛に被われており両親の後をついて歩く姿はかわいいものです。



§ マンドリル誕生

6月10日マンドリルの赤ちゃんが生まれました。マンドリルの誕生は天王寺動物園では初めての事です。父親は昭和47年、母親は昭和54年にそれぞれ来園したものです。昭和62年にいちど流産していましたが、繁殖の期待がもたれていましたが、なかなか赤ちゃんが生まれなかっただけに待望の赤ちゃんの誕生です。



マンドリルはアフリカ西部の熱帯雨林に住んでいるヒビの仲間、鼻の両側にある青いしま模様がいへんよく目立ちます。生まれた赤ちゃんはメスでまだ母親の胸にしがみついています。

マンドリルは野生では大変数が少なくなってきている動物ですので今回の繁殖は意義のあることです。

§ ニジキジの自然ふ化

6月19日ニジキジが5羽自然ふ化しました。ニジキジの人工ふ化は当園では、昭和36年以来何回も成功しており、今回繁殖に成功したペアからも昭和60年と昭和61年にそれぞれ7羽のヒナが成育しています。

現在の飼育動物数
(昭和63年6月30日現在)

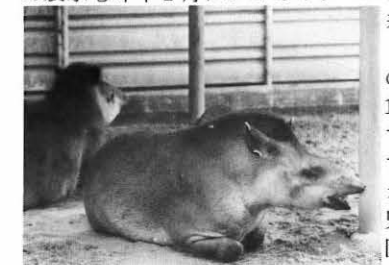
哺乳類	13目 104種	445点
鳥類	20目 198種	618点
爬虫類	3目 34種	88点
合計	36目 336種	1,151点

昨年も自然ふ化を試み卵を抱かせたのですが、すべて無精卵でふ化しませんでした。そこで今年は4月17日の初卵から7個の卵を孵卵器に入れていたが、有精卵が確認できたので5月11日以後の卵はメスに抱かせていました。自然ふ化と共に、人工ふ化でも4羽のヒナがふ化しています。ニジキジの自然ふ化は日本の動物園では初めての事です。



§ アメリカバク来園

6月20日、横浜市金沢動物園のご好意で借り受けたアメリカバクが来園しました。アメリカバクの展示は昭和53年にメスが死亡して以来のことで、バクの展示も昨年2月にメスのマレーバクが死亡して以来の事です。



来園したオスの“ボーイ”は1980年にカナダで生まれたもので、メス“マーガレット”は鹿児島県の平川動物園で1979年に生まれたものです。

横浜の動物園では繁殖実績があるので、今後の繁殖も充分期待できそうです。

◎ お知らせ

大阪市天王寺動物園協会の役員が昭和63年6月30日付で次のとおり変更されました。

	新	旧
会長	西尾 照子	大島 直子
副会長	二宮 弘子	近藤 幸子
副会長(常勤)	中川 道朗	中川 道朗
専務理事	橋本 一郎	橋本 一郎
事務局長	橋本 一郎(兼務)	橋本 一郎
理事	橋本 固	大塚 幸太郎 (前公園局長)

動物のお話とスライドの会

- 8月21日(日) キーウィに花嫁がやってきた
 - 9月18日(日) 動物園の台所事情
 - 10月16日(日) 動物園で働く人達
- 時間：午後1時～2時
於：北園レクチャールーム

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。10月まで休園日は下記のとおりです。
8月15日(月)、9月19日(月)、10月17日(月)、
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

キップスは便利をかたちにしたカード。

近鉄グループカード
〈キップス〉
会員募集中

KIPPS VISA JCB

◎近鉄百貨店でのお買物が5%割引など、近鉄グループの特典いろいろ。

お問合せとお申込みは各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階 ●上本町店11階 ●東大阪店本館 ●橿原店6階 ●奈良店4階 ●西京都店1階 ●東京店7階

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 が一つの本の
中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間は？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むし くらしと
かいかた

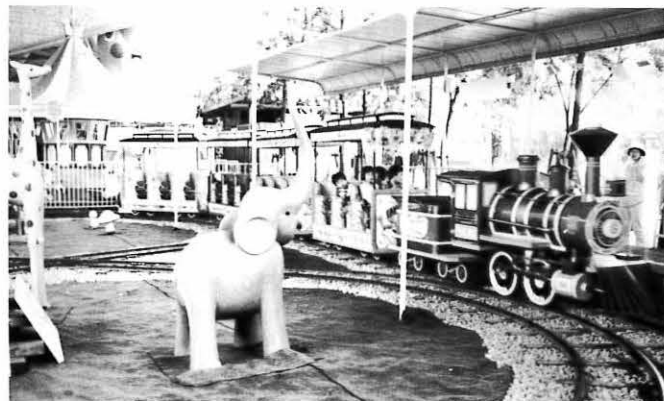
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしと
かいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 **ひかりのくに株式会社** 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは
頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく

フジカラー SUPER HR

カラの大林
桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉 著 日本狼の正史ついに完成

改訂六版 **狼—その生態と歴史—**

定価 2,800円
A5判・本文320頁
口絵・挿画等140図

☆犬科動物の研究者として知られる著者が数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の眼をもって描いた空前の書。日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 序章 狼への幻想と現実 | 第一章 犬科の分類と解説 |
| 第二章 犬と狼の関係 家犬の成立 犬と狼の相違点 | 第三章 日本狼の歴史 古代の狼害と狼の神格化 |
| 第四章 狼狩の記録 江戸時代の狼狩り | 第五章 狼の伝説 間違いだらけの狼の姿態 |
| 第六章 日本狼の形態 日本における狼の研究 | 第七章 日本狼の絶滅 最後の日本狼 |
| 終章 狼を飼った人々 秩父宮殿下の狼。著者の飼った狼 | |

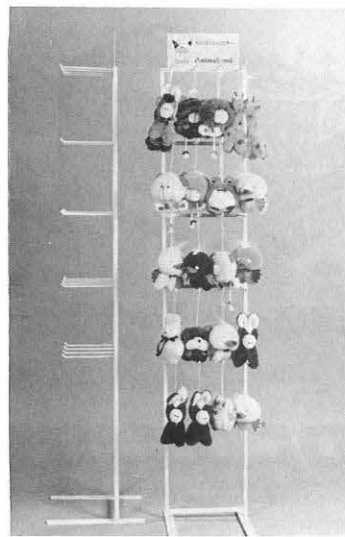
発行 動物文学会 〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659 振替東京5-9800 発売 (株)池田書店 〒162 東京都新宿区弁天町43番地 電話(03)267-6821 振替東京2-60072

- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。



大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

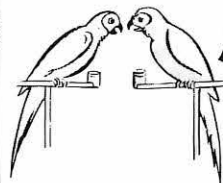


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

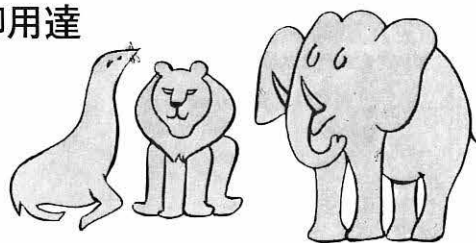
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

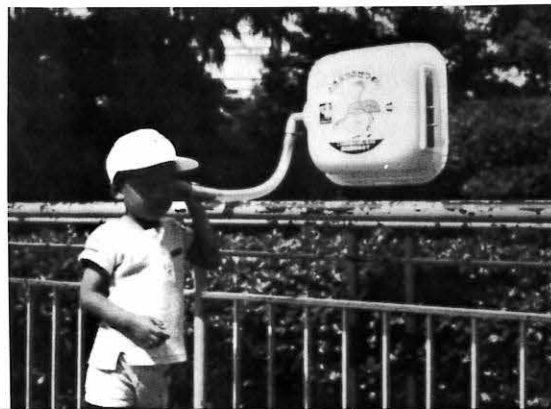


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

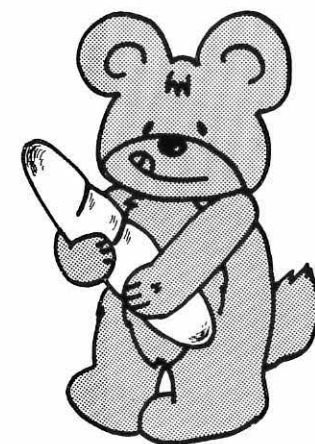
関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

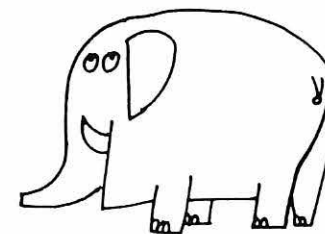
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内

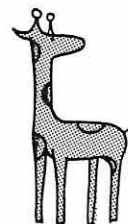


南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は… 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますので説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

もっとおいしく もっと元気に!... 雪印



雪印ヨーグルト 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

ホワイを基調にしたシンプルなデザインで、ヨーグルトのさわやかさにもピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和63年 8月10日発行 (毎月1回10日発行) 第24巻 第8号 (通巻276号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

編集委員

(土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/齊田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)
森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/赤松 建/中垣圭史/大川光雄/山下賢二/土谷正道

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823